



# School Volunteer KSSVCだより

Kobayashi Support Center

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

学校向け

## みなさん こんにちは。 小林市に来られた先生方 はじめまして！

小林市のすべての小・中学校で地域学校協働活動推進事業(学校支援地域本部事業)が始まって10年目の春。でも…様々な行事が自粛を余儀なくされる中で、新年度を迎えました。

先生方も今後の対応に苦慮されていることでしょう。事務局でも、学校の状況を把握しつつ事業を進めていきたいと考えています。

さて、学校や地域の皆様のご理解・ご支援をいただき、本事業も年々充実してきました。新年度の始まりにあたりKSSVCについて簡単に紹介します。

### Q1 KSSVC って何ですか？

「こばやしスクールサポートボランティアセンター」です。KSSVC事業は小林方式の「地域学校協働活動推進事業」です。

### Q2 事業のねらいは？

保護者や地域住民、関係諸機関が連携・協働し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、地域と学校がパートナーとして「学校を核とした地域づくり」を目指します。

### Q3 どんなことに取り組んでいますか？

小林中央公民館内に事務局があり、アドバイザー2名(甲斐・堀)が在籍しています。

- ☆ ボランティアを募集して学校へ紹介。学校からのボランティアの依頼にも応じます。
- ☆ 地域学校協働活動取材させていただきます。取材後、掲示用の写真(A4版)を学校に届け、中央公民館にも掲示します。
- ☆ 「KSSVC だより」(学校向けと地域回覧用)を発行し、活動の様子を広く紹介します。昨年度は学校向けを20回、回覧用を12回発行しました。
- ☆ 協働活動の実績(活動件数・ボランティアの人数)を、年に1度集約します。
- ☆ 各学校の取組をまとめた「実践記録集」と事務局の業務をまとめた「1年間のあゆみ」を年度末に作成し、学校と関係諸機関に届けます。
- ☆ 学校・地域コーディネーターの研修会を、年に2回開催します。

### Q4 取材の方法・対象は？

提出していただいた計画表を基に事前に電話をして訪問します。対象は地域と学校が共に行う活動、学校支援ボランティアの様子、外部講師による授業や教室、社会科見学などです。

### Q5 協働活動事業で期待される効果は？

- 【学校では…】
- ① 学校の教育活動の充実 (100%)
  - ② 教職員が子どもと向き合う時間の増加 (66.7%)
  - ③ 地域に支えられ、応援される学校づくり (100%)
  - ④ 地域に愛着を持ち、地域に貢献したいと考える人材の育成 (90.5%)

数字は小中学校21校の肯定的評価「そう思う+どちらかというと思う」の割合です。(H.30.11月調査)

- 【地域では…】
- ① 地域住民の生きがいと自己実現 (83.3%)
  - ② 地域住民による社会参画の広がり (58.3%)
  - ③ 地域社会の活性化(91.7%)
  - ④ 学校と子どもたちへの理解の深まり(91.7%)

第1回研修会(R元.9.2)でのボランティアの皆さんの肯定的評価です。

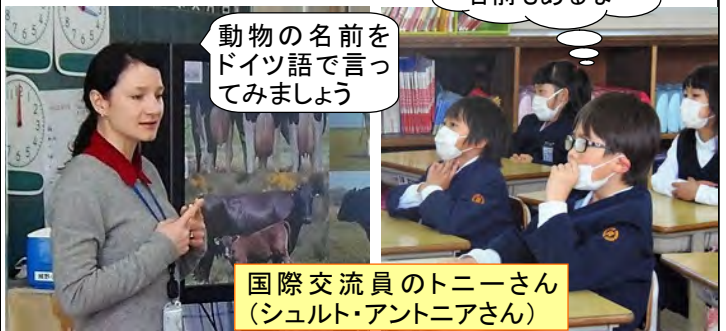
協働活動に参加した方々からよく聞くのが、「子どもたちから元気をもらいました」のひとことです。この「元気」が個人や地域を生き生きとさせるエネルギーになるのでしょうか。



ここからは、今年2月の活動です。

### 細野小 国際交流学習

英語と似ている名前もあるな～



国際交流員のトニーさん (シュルト・アントニアさん)



動物バスケット

トニーさんは1・2年生の4クラスを訪問。ドイツ語のあいさつと動物の名前を教えてくださいました。動物バスケットは、ドイツ語で動物の名前を言い、そのカードを持った人が動くゲームです。やるほどに盛り上がりました。

## 野尻小 社会科見学

3年生



歴史民俗資料館

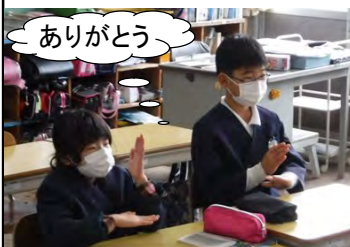


最初は、どこにどんなものがあるかを確認。2回目は道具の名前と何に使うかを調べながら回り、最後に先生が説明や質問をしながらもう一度見学しました。

子どもたちは昔の生活を想像しながら熱心に記録をとっていました。分からないことは学校でインターネットを使って調べます。

## 西小林小 手話講座

4年生



ありがとう



名前を指文字で…

聞こえない人と伝え合う方法や、手話での簡単な挨拶、手話と指文字での自己紹介を学びました。

ほとんどの子どもたちが初めての体験でしたが、木の実(このみ)会の皆さん3名の丁寧なご指導で、最後には手話で自己紹介もできるようになりました。



## 東方小 福祉体験学習

3年生



装具を付けて、字を書く、お金を数える、階段を上り下りするなど、高齢者の日常生活を疑似体験しました。

加齢による身体の衰えを理解することで、高齢者の不安な気持ちに気づき、介助やコミュニケーションの取り方などを体験的に学ぶことができました。

指導は社会福祉協議会の皆さんです。

## 三松小 小林高校との交流学習

4年生



とても分かりやすかったです。



市内の川に生息している天然記念物のオオヨドカワゴロモについて学んでいる小学生と、調査研究で高い評価を得ている探求科学コースの2年生5名が発表を通して交流。

前半は4年生のポスターセッション。高校生からも感想やアドバイスをもらいました。後半は小学生向けに内容を工夫した高校生の研究発表「オオヨドカワゴロモ～生態と保全～」。

2年前に学習した6年生も加わり、現地調査の結果などを聞きました。小林高校の戸高校長先生は「こういう交流学習を今後も進めていきたいですね」と感想を述べていました。

## 三松小 ライフ・夢プラン

6年生



10名の保護者が「よのなか先生」になり、仕事のやりがいや苦勞、楽しさなどを伝えてくださいました。子どもたちは、10の職業から3つを選んで話を聞き、「直接聞いたので分かりやすかった」という感想も聞かれました。

当日は参観日で、多くの保護者が参加し、お話や子どもたちの質問に耳を傾けていました。

## 「協働の学校づくり」推進協議会×KSSVC 研修会



### 【出席者】

- 学校・地域コーディネーター
- 学習支援ボランティア「ひなもりたい」
- 教育委員会
- 遠藤宏美さん(宮崎大学教育学部准教授)

【内容】◆ 説明「これからの学校運営協議会(CS)と地域学校協働活動」 ◆ 講話「社会に開かれた教育課程実現のため、学校と地域のあるべき姿」(遠藤さん)

◆ 実践発表 ①「子どもと地域をつなぐまちづくり」(内村文彦さん:細野まちづくり協議会会長)

②「“三方良し”の学習支援ボランティア」(大野聡彦さん:栗須小学校教頭)





# School Volunteer KSSVCだより

Kobayashi Support Center

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

学校向け

秋になると、吹奏楽部に、祭りや地域の行事への出演依頼が寄せられます。「地域の方には普段からお世話になっているので、何とか協力を」と、顧問の先生にはお願いしているのですが…。

昨年、他県の中学校の校長先生から、こんな話を聞きました。これまでも、学校と地域は連携して教育活動に取り組み、地域の活性化を進めてきました。しかしながら、地域が学校を支援するという一方向の関係だけに留まったり、地域の行事への参加が学校の負担になるといった課題も指摘されていました。

地域学校協働活動は地域と学校が目的・目標を共有したパートナーとなり、人づくりや地域づくりを進めていく取組です。小林でも、祭りの準備や運営、防災訓練への参加など、各種団体と一緒に、地域の行事に学校が積極的に関わっている事例も見られます。

KSSVC事業の目的は「次世代を担う人材育成と持続可能な地域社会の実現」です。そのためには、より多く、より幅広い層の地域住民・団体等が任意で参画する緩やかなネットワークを形成することが、(目標として)求められています。



## いろいろな活動とボランティアの皆さん

昨年度末に配布した実践記録集では、取材させていただいた活動を20の分野にまとめています。KSSVCだよりに一度掲載していますが、ネットワークづくりの参考に、個人や事業所・団体の皆さんを再度紹介します。

### 1 教科等の支援

学年は旧学年です。



小林ガイドボランティア



小林小6年「二原遺跡見学」



南小3年「出の山ホテルの授業」

西さん・永井さん：宮崎県環境保全アドバイザー



学習支援ボランティア



栗須小「授業の支援」



細野中「環境とごみ問題を考える講演会」

谷山さん：NPO 法人「赤とんぼ」

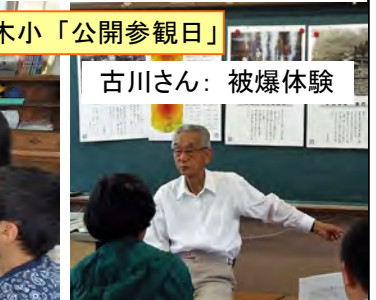


紙屋中1年「西諸弁の学習」

吉丸さん兄弟



永田さん：俳句教室



須木小「公開参観日」

古川さん：被爆体験



永久津小4年「社会科見学」

九州北清



清掃工場



堀さん：“B FORMATION”



東方中「ダンスの授業」

《 裏面に続きます 》



木の実会

三松小3年  
「手話講座」



近未来ハイスクール

キャリア教育支援センター

【社会科見学等で訪問した施設や事業所】

- ◆ 市役所・給食センター・図書館 ◆ 水源地・浄水場
- ◆ アグリサポートセンター(JAこばやし)の育苗施設
- ◆ 幼稚園・保育園 ◆ 中央消防署・小林警察署
- ◆ 地域のスーパー・商店 ◆ グンゼ九州工場
- ◆ 野尻原用水路 ◆ 歴史民俗資料館 ◆ コスモドーム
- ◆ 保育園・幼稚園 ◆ のじりこびあ

2 キャリア教育

須木中「ドリームジャンボ  
学園」医療に関わる仕事



社会福祉協議会・市立病院

3 福祉体験学習

西小林中3年「認知症  
サポーター養成講座」



小倉さん(西小林ケアプランセンター  
和)・小林市地域包括支援セン  
ター・にっこばまちづくり協議会



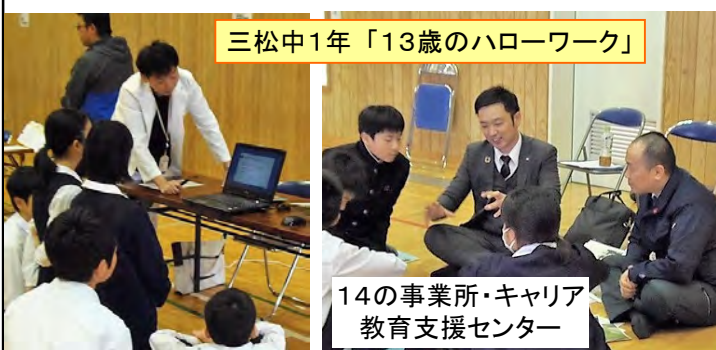
小林中1年「仕事についての講話」

山元さん:サーフボード製作者



東方小6年「陽光の里交流会」

デイサービス  
利用の皆さん



三松中1年「13歳のハローワーク」

14の事業所・キャリア  
教育支援センター



永久津中3年  
「福祉体験学習」

社会福祉協議会



野尻中1年「ライブ  
プランニング」

ソニー生命保険株式会社



紙屋小3・4年  
「きりしまの園訪問」

入所の皆さん

学校での高齢者疑似体験や認知症についての学習を経て老人ホームやデイサービスの施設を訪問するなど、学んだことを生かす活動が増えています。

キャリア教育についてのご相談は  
小林キャリア教育支援センターまで。  
【藤田さん: 小林商工会議所 Tel 23-4121】



【事務局より】 取材の際は、提出  
いただいた4・5月の計画に沿って、  
電話をして伺います。よろしくお願いします。





# School Volunteer KSSVC だより

Kobayashi Support Center

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

学校向け

3月の取材はゼロ、4月も交通教室の4件のみでした。休校や活動の自粛等の対応に追われている学校の厳しい状況は想像に余りあります。感染の1日も早い終息を祈りつつ、再び学校を訪問できる日を心待ちにしています。

## 交通教室

## 紙屋中



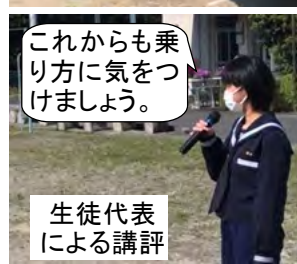
横断歩道は降りて、左右を確認



身を乗り出して確認



サドルの高さ、ライト、ブレーキなどの点検



これからも乗り方に気をつけましょう。

生徒代表による講評

- 目的は① 交通安全に対する意識を高める。② 自転車の正しい乗り方とマナーを身に付ける。③ 自転車の点検方法を身に付ける。

交通ルールの再確認と自転車の点検を行った後、運動場に作られたコースを実際に運転しながら、正しい自転車の乗り方やマナーについて改めて学習しました。

## 幸ヶ丘小



学校前の横断歩道でも練習



講師は小林警察署と交通安全協会の皆さん



見通しの悪い交差点では…



教えてもらったことを意識して生活します。

1・2年生は横断歩道の渡り方、3年生以上は正しい自転車の乗り方について学びました。子どもたちは、事故を防ぐ第一歩である「確認する(見る)こと」を繰り返し練習し、交通安全に対する意識を高めていました。

## 三松小



1年生が対象の交通教室です。信号機のある横断歩道の確認と渡り方を、最初は先生方や交通指導員の皆さんと、その後は付添いなしで練習しました。

## 細野小



時速40kmでの衝突実験

横断歩道の渡り方、自転車の点検と正しい乗り方について学年ごとに教えてもらいました。実験では、衝突の瞬間に子どもたちの間から悲鳴が漏れ、事故の怖さを実感していました。

## 子どもたちへの応援メッセージ

## 三松中



Things will work out!

【三松中】 みんなで一致団結！ この難局を乗り越えましょう！「臨時休校時の生活心得」を参考に、計画的に規則正しく三松中生らしい態度で生活を送りましょう。

細野中

恒例の新春根性行進の写真をモチーフに…



新春根性行進は、細野中生徒全員の「心の強さ」の証明となる長年にわたって続いている行事です。

この『根性』をもって、当たり前前の学校生活を取り戻すために、頑張っていきましょうね！

小林小



みなさんが学校に来られるようになったときに、「楽しい」「できるようになった」という体験がたくさんできるように、(先生たちも)勉強や授業の準備をがんばっていますよ。

休校中は自由に遊ぶことはできませんが、命や健康を守ることは何よりも大切です。規則正しい生活や手洗いや消毒に心がけましょうね。

西小林中



こんなときこそ、将来につながる自分磨きに力を入れましょう。

そして、みんなでUP DATE！

みんなのがんばりを応援しています。再会できる日が1日も早くなりますように！

小林中



このようなきだからこそ、みんなで心をつにして、この困難を乗り越えましょう！

そのためには、『今自分にできることは何か』をしっかりと考え、『実践すること』が大切です。皆さんならきっとできると信じています。

紙屋中

新型コロナウイルスに負けずに、「紙屋魂」で頑張ろう！



紙屋中学校を元気にするための2大プロジェクト：一つは、家族全員で観てほしい家庭学習用DVDの作成・配付です。そして、生徒たちや保護者の皆様に「笑顔」をお届けすることを目的とした「学校だより」(全職員からのメッセージ)の発行です。

栗須小



「共同助力は人の道 己の利のみかえりみず 力をわかちものをさき 苦しむ者を泣く者を助けて共に楽しまん」(校門わきにある石碑のこたば)

このようなきだからこそ、「共同助力」。お互いのことを考えながら、自分にできることを一生懸命に取り組みましょう。

アイデアいっぱいのご投稿をありがとうございました。先生方の熱い思いに触れ、私たちも元気をもらいました。「言葉の力」を改めて感じた次第です。掲載できなかったメッセージは次号で紹介いたします。

メッセージの全文は小林市のホームページで読むことができます。

「KSSVC」で検索 → 地域学校協働活動事業 - 小林市ポータルサイト → 応援メッセージ



# School Volunteer KSSVCだより

Kobayashi Support Center

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

学校向け

「学校が再開してからの応援メッセージ？」と思われたかもしれません。でも、小林の子どもたちへの思いを、先生方と共有する意味も込めて紹介しています。加えて、励ましや共感のメッセージは、今回だけでなく、これからも子どもたちへ発信され続けることでしょう。

## 野尻小



(野尻小からは先生方全員のメッセージが届きました。ここでは、校長先生の言葉を紹介します)

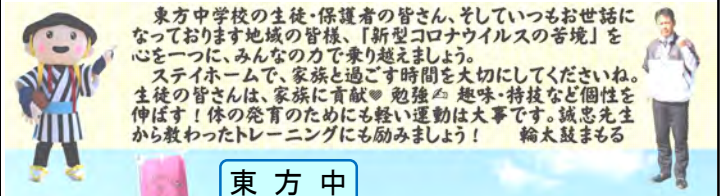
子ども達が教室で学習し、運動場で元気に遊ぶというような「学校の日常」がいかにありがたいものであったかということを実感しています。「辛抱」の先にある幸せな「日常」を思い、もうひといき皆で頑張りましょう。

## 細野小



毎日が、マイナスのニュースばかりで本当に「大変」ですね。でも、「大変」を「大きく変わる」チャンスととらえてがんばりましょう。名付けてコロナウイルス「プラス」作戦です。たとえば…

- ☆ 自分でしっかりと考えて勉強できるチャンスだな。
- ☆ おうちでのお手伝いの工夫ができるチャンスだな。
- ☆ たくさんの本を読めるチャンスだな。
- ☆ マスクづくりなど、手づくりを楽しめるチャンスだな。



東方中学校の生徒・保護者の皆さん、そしていつもお世話になっております地域の皆様、「新型コロナウイルスの苦境」を心をついに、みんなの力で乗り越えましょう。ステイホームで、家族と過ごす時間を大切にしてくださいね。生徒の皆さんは、家族に貢献♡勉強♡趣味♡特技など個性を伸ばす！体の発育のためにも軽い運動は大事です。誠忠先生から教わったトレーニングにも励みましょう！ 輪太鼓まわる

## 東方中



## 野尻中



今は1人1人が感染しない、感染させないことが最優先！ またみんなで笑顔の絶えない野尻中学校 に戻れる日を楽しみにしています！



【紙屋小】 新型コロナウイルスの影響で臨時休業が続いていますが、先生達はみなさんが元気に登校できるようになる日を楽しみに待ちながら、授業再開の準備をしています。

大変な日が続きますが、みなさんも自分にできることを精一杯がんばって、乗り切っていきましょう！

(この後、担任の先生方と保健室の先生のメッセージが続きます)



(登校日にとったアンケートでは…)  
 「元気にすごしているの、こまったことはありません」「勉強はお母さんに教えてもらっているの、だいじょうぶです」など、元気に過ごしている内容がほとんどでしたが、中には「勉強がおくれてこまる」「外に出られないから運動不足になる」など、心配事がかかえている内容もありました。  
 みなさんが、今、直面している状況は、つらかったり、不安だったりするかもしれませんが、でも、やまない雨はありません。きっとまた、楽しい毎日がもどってくるでしょう。それまで、今自分たちにできることを続けましょう。

須木小

めあて  
 コロナにまけるな  
 先生たちは、みなさんが元気に登校してくることを学校で楽しみに待っています。  
 未来のために「今できること」をがんばってのりこえましょう！



たくさんのメッセージから笑顔と元気をもらいました。

**ご協力、ありがとうございました。**

※ メッセージの全文は

「KSSVC」で検索 → 地域学校協働活動事業 - 小林市ポータルサイト → 応援メッセージ

【分野ごとの活動（第2号で紹介）の続きです】

4 安全教育

三松小「交通教室」  
梅田学園自動車学校



段ボールを使った衝突実験



東方中「避難訓練(地震)」



日本赤十字社宮崎支部  
きりしま支援学校 中学部(昨年度)

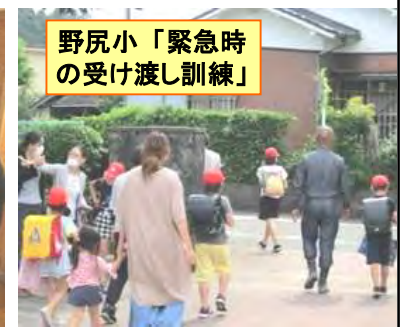
西小林中「避難訓練(不審者対応)」 小林警察署



つかまれた時の対応訓練



野尻小「緊急時の受け渡し訓練」



栗須小「みかんやまスマイルフェスタ」



土のう作り



炊き出し訓練

当分の間、これまで通りの地域学校協働活動は実施が困難だと思っています。KSSVC だよりも過去の取組をまとめて掲載しています。

授業時数の確保や「3密」を回避した教育活動など、課題が山積みの中で日々奮闘されている先生方が、学校が平常に近づいた時の参考になればと思い、紹介しました。





# School Volunteer KSSVCだより

Kobayashi Support Center

学校向け

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

事務局では、平和学習での講話や個人的にお聞きしたお話など、いろいろな方の「戦争体験」を紹介してきました。

今回は、環野(たまきの)にお住いの久保松雄さんです。生駒高原の環野地区には、終戦後、パラオから多くの引き上げ者が入植しました。

久保さんはパラオの文化と悲惨な戦争の記憶を後世に伝えたいという思いから、集会所などに使われた伝統的な建物「アバイ」を自費で建設しました。



「生駒高原 花の駅」を過ぎて右側です。



アバイの室内

久保松雄さん(85歳)

壁面にはパラオの神話(絵と物語)、パラオ諸島の一つペリリュウ島の激戦や戦争遺跡の写真などが展示されています。



【パラオへ】 日本が委任統治をしていたパラオは農業・水産業・鉱業が盛んで、1943年当時(昭和18年)、約2万5千人の日本人が暮らしていました。久保さんは家族と共に6歳で移住、国民学校(小学校)に通いました。青い海での水泳や魚釣り、美しい自然の中で、家族や友達と幸せな日々を送り、現地住民も参加しての運動会など、楽しい思い出もたくさんありました。

【空襲】 (1) 1944年3月にはパラオ本島が空襲されます。外出中に突然、米軍の戦闘機の機銃掃射を受け、道路脇の「タコつぼ」(避難用の穴)に飛び込み、難を逃れたこともありました。頭の上を弾が音をたてて飛び、とても恐ろしい思いをしました。

(2) ある日、木陰で休んでいると戦闘機が向かって来るのが見えました。久保さんは怖くて動けずにじっとしていました。一緒にいた友人が逃げようとして駆け出した瞬間、太ももを撃たれました。病院に運ばれ、一命はとりとめま



パラオの神話を題材にした版画

したが、満足な薬もなく、十分な治療は受けられませんでした。

(3) 食料を求めて避難先を移ったこともあり、2人の弟を連れて移動の途中、高台にある神社にいと、戦闘機が低空で飛んできました。「撃たれる!」と観念しましたが、戦闘機はそのまま飛び去りました。操縦席のパイロットの顔まではっきりと見えました。

「多分、子どもだとわかって何もしなかったのでしょうか。危険な目に何度も遭いましたが、命が助かったのは運が良かったことに尽きます」と久保さんは語っています。



建物の梁(はり)にはパラオと環野のさまざまな生活が描かれています。須木でデザイン工房を開いている山中悦郎さんが、久保さんのお話を基に制作したものです。

【野戦病院】 (1) 知人の見舞いで両親と訪れた野戦病院には、病氣や負傷した兵隊・民間人が数多くいました。バナナやパイナップル、薬になると聞いて、トカゲを焼いて粉にして持っていったりもしました。

(2) 栄養失調で入院していた兵隊が、台所まで這っていき、イモのツルをくわえた姿で亡くなっていたこともありました。

(3) 医薬品が不足し、体に入った弾を取り出すのも麻酔なしでした。患者が暴れるので、数人で押さえつけて手術をしていました。

(4) 兵隊の埋葬も見ました。立ち昇る煙が米軍の目印になるのを避けて火葬にはせず、何人もの遺体を一緒に埋めました。その際、手の指を1本切り、カーバイドで焼いて骨箱に収めていました。

※ カーバイド: 炭化カルシウムの固体。水と反応させるとアセチレンガスが発生する。照明にも用いた。



海亀の彫刻

【疎開】 自宅から10キロほど離れた山中にある、父親が勤める三井鉱山が作った避難所に移りました。倉庫のような建物で、数家族が一緒に生活をしていました。食糧が不足し、主にイモやイモヅルを食べ、トカゲやカタツムリを焼いたり塩ゆでにして食べたこともあります。

【ペリリュウの戦い】 ペリリュウ島はパラオ諸島の南にあり、1944年9月から11月にかけて日本軍守備隊とアメリカ軍が激戦を繰り広げました。日本の守備隊員はほとんどが戦死し、その数10,695人。米軍も戦死者2,336人、戦傷者8,450人を数えました。(Wikipediaより)

【帰国】 戦後、パラオはアメリカの統治領になり、日本人は帰国させられます。久保さん一家はアメリカの貨物船に乗せられ、2週間かけて横須賀に着きました。戦争中は怖いと思っていたアメリカ兵が優しく接してくれ、乾パンをもらったこともありました。

【小林へ】 横須賀で数日間待機させられ、その間、郷里など、行く場所がある者はそこへ、ない者は国が紹介した開拓地に向かいました。久保さんたちは、いくつかの候補地から小林を選び、貨車に乗せられ、2日かけて着きました。途中、吉松駅では地域の方が「お帰りなさい」と、お茶を出してくださり、そのおいしさを今でも覚えているそうです。



叔母が産気づき、産婆さん(助産師)を迎えに、環野から片道3時間かけて小林の街へ。無事に生まれました。

【環野へ】 小林では牧場にあった旧日本軍の兵舎に落ち着き、軍が残したコーリャンを食べ、「こも(粗く編んだむしろ)」を敷いて寝ました。ちょうど桜が満開の頃でした。

家族が生活する家を作るために大人たちは牧場から生駒に通いました。カヤの原野を切り開いて開墾し、開拓生活が始まりました。



【長靴のこと】 環野では西小林小学校の5年生に編入。1時間半かけてわら草履で通いました。

ゴムの長靴が学級に1足配給された時のことです。当時は500円もする高級品

でした。普通はくじで決めますが、私がわら草履で通っていたことを知っていたのでしょうか。担任の大迫先生が「久保、長靴はお前がもらえ」と渡してくれました。普段は厳しい先生でしたが、その優しさがずっと忘れられず、後年、お葬式に参列させてもらいました。

【開拓生活】 (1) 最初の家はカヤぶき、壁もカヤを束ねたもので、隙間から月が見えました。布団は綿の代わりにわらをほぐして入れたもの。でも、ぶ厚くて結構暖かかったそうです。(2) 最初はさつまいも、それから陸稲も作りました。4年ほど経った頃、陸稲を食べました。数年ぶりに口にできる米のごはんでした。(3) 家の仕事が忙しく、中学校には半分も行っていない。丸太を運んだり、西小林から肥料袋をかついで上がったりました。

その後、久保さんは花卉栽培を始め、今は息子さんが後を継いでいます。「戦争は絶対にしたらダメです」。お話を伺っている時、久保さんは何度も口にしました。

時代とともに戦争体験者がいなくなり、直接話を聞く機会も少なくなっています。私たちは過去の反省を糧にして、未来を築いていかねばなりません。

パラオの思い出や戦争への思いが少しでも残せればと、環野の資料館に何度か足を運び、まとめました。

久保さんは学校でもお話をしてくださいませ。

依頼される際は事務局まで連絡をお願いします。

### さつまいもの植付

### 野尻小 1・2年生



協力は東麓営農組合・JAこばやしの皆さん、PTA会長さん



野尻小



幸ヶ丘小

### 幸ヶ丘小 1～4年生



ほんの一瞬だけマスクを取り、息を止めて、「はい、ポーズ！」

両校とも、感染や熱中症対策として、作業の一部を地域の方をお願いし、できるだけ短時間で終わるよう工夫して実施しました。

自立  
「学びたい」「学ばせたい」  
気持ちを高める  
小林教育  
貢献  
感謝

School Volunteer

# KSSVCだより

Kobayashi Support Center

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

## 学校向け



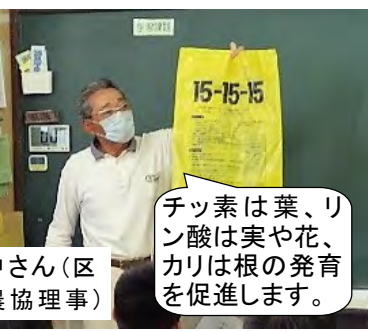
「密」防止の「足跡」

学校を訪問する機会が少しずつ増えてきました。でも、実施の判断や十分な感染対策など、学校が事前に費やす労力も増えていることでしょう。  
「3密」を避けなければならない中での協働活動。過去に例がないだけに、参観する度に、先生方のご苦勞を思います。

私たちも、ご迷惑にならないように気をつけて取材をさせていただきます。

### 西小林中 栽培の授業

肥料の働きとさつまいもの植付けを学びました。



下沖さん(区長・農協理事)

チッ素は葉、リン酸は実や花、カリは根の発育を促進します。



2年技術・家庭科「栽培」



雨が降りそうですが、苗植えにはベストの天気です。

木村さん(前PTA会長)

2人1組で「黄金千貫」を、一部に「シルクスイート」と「紅はるか」も植えました。広い畑ですが、協力して1時間ほどで終わりました。11月の収穫が楽しみです。

### 細野小 心肺蘇生法の研修



〇〇先生はAED、〇〇先生は救急車をお願いします！



ハートの両面が大人用と子供用。「ピッ」と鳴るまで押えます。

5月中は消防署員が訪問できないとのこと、担当の先生を中心に実施しました。  
テーマは「生死を分ける5分間」。動画の視聴、AEDとトレーニングキットを使っての実技、プール指導時の連絡体制の確認など、命を守る研修に、先生方は熱心に取り組んでいました。

### 紙屋中 薬物乱用・ネット犯罪防止教室



小林でも大麻栽培の事例があります。

溝俣さん(小林警察署)

誘われても断る勇気を持ちたいです。

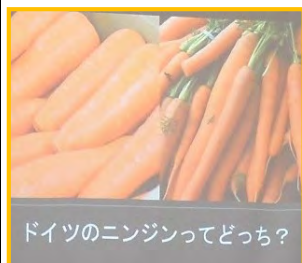
規制薬物と危険ドラッグ、スマホなどを使ったサイバー犯罪(チケット詐欺、フィッシングなど)について、説明とDVDの視聴を通して学びました。  
若者が薬物で心も体も破壊されていく内容に、生徒たちは真剣な表情で見入っていました。

### 小林小 国際交流員訪問

アントニア・シュルトさんが1年生3クラスを訪問しました。



トニーと呼んでくださいね。



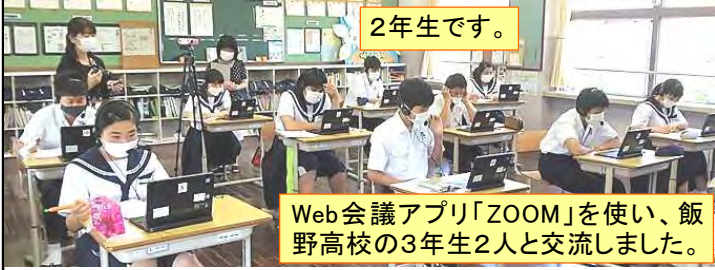
ドイツのニンジンってどっち？



あたった！

最初はトニーさんの母国、ドイツの位置や家族、町の様子などを写真で紹介。その後、日本との違いをクイズにした「どくにちゲーム」をしました。正解の度に子どもたちから歓声上がり、どのクラスも大いに盛り上がりました。  
本来なら、ご家族が4月に日本に来る予定でした。でも、「コロナでダメになりました」と、トニーさんはとても残念がっていました。コロナの影響はいろいろなところに及んでいます。

## 須木中 オンライン「先輩の声を聞く会」



2年生です。

Web会議アプリ「ZOOM」を使い、飯野高校の3年生2人と交流しました。



2人は飯野高校の取組や全国規模のサミットなどについて話してくれました。

ねらいは職場体験のイメージづくりとコミュニケーション能力の育成です。飯野高校の地域探求プロジェクトやサミットの体験について聞き、質問をしました。

2年生は画像と音声で届く高校生の多彩な活動に良い刺激を受けた様子でした。須木中では、今後2回のWeb交流学习を予定しています。

【対話の一部より】◇ プロジェクトで「～したらダメ」と叱られることはありません。「～しては」と、提案やアドバイスをもらいます。◇ 全国規模のサミットに参加して、えびの市の良さを改めて感じました。また、自分に必要な資質もわかりました。◇ コロナで休校中にズームを使った高校生の会議を立ちあげました。これから、どんなことをやれるのか相談していきたいです。

◇ こんなことがやれるようになりたいと思って、体験活動に臨んでください。◇ 職場体験ではいろいろな人とコミュニケーションをとる力を身に付けたいです。(中学生)

## 三松小 歴史ウォークラリー

6年生



読める？

関ヶ原の戦いで亡くなった佐土原藩士の墓と供養碑があります。

内待塚



西軍についた佐土原藩は取り潰しに。一部の藩士と家族が堤地区に移住しました。

広い土地に突き出た所を「鼻」と言います。

田中の鼻

校区内の史跡巡りです。家の近くのなかに気づかなかった供養碑など、たくさんの発見がありました。(案内はガイドボランティア協会の皆さん9名)

## 紙屋小・中 合同田植え

5年生12名  
中学生25名



UMKの取材です。

昭和60年代の勤労体験学習の流れをくむ田植えです。地域コーディネーターとPTAの皆さんの協力を得て実施しました。小中連携や地域との協働など、学ぶことがたくさんありました。(27日の「のびよ!みやざきっ子」で紹介されます)

## 栗須小 みどりの少年団結団式

4年生



栗須小の「みどりの少年団」は、昭和18年に設立され、77年の歴史があります。花壇の手入れ、一人一鉢運動、森林体験、募金活動などを行っています。



保護者も一緒にお話を聞きました。

主に山の管理をしています。

川添さん・東原さん  
(農業振興課)

森林の役割や木材の長所、宮崎県の林業についての説明を聞いた後、「みどりの少年団憲章」を一斉に読みました。豊かな心をつくることも少年団活動の目的のひとつです。

【事務局より】 校長先生・教頭先生・学校コーディネーターの先生方にはKメールでお伝えしましたが、第1回のKSSVC研修会は中止します。同日に実施していた「協働の学校づくり」推進協議会は7月6日の予定です。

協議や情報交換の機会がなくなりますが、課題や今後の取組等について、後日、メール等でご意見をお聞きしたいと思います。その際は、ご協力をよろしくお願いいたします。



# School Volunteer KSSVC だより

Kobayashi Support Center

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

学校向け

「白で四角」だと思っていたマスクにさまざまな色やデザインのものが見られるようになりました。新しい生活様式も、「今まで通り」を改めるきっかけになることなのでしょう。

「3密」への対応が求められる中、地域学校協働活動も細かな対策をした上で行われています。参観させていただく度に活動内容の変更や運営の工夫など、実施に向けた先生方のご苦勞を感じています。 ※事務局が訪問できない時は、画像等の提供をお願いします。KSSVC フォルダの「投稿ボックス」をご活用ください。

## 小林小 読み聞かせ

1～3年生



9クラスで行い、物語の朗読やクイズ、大画面での読み聞かせもありました。1年生は小学校で初めての読み聞かせに興味津々といった様子で楽しんで聞いていました。

## 野尻中 災害時の引き渡し訓練



緊急時における生徒の安全確保、保護者・地域との連携を円滑に行うための訓練です。「職員集合」→「引き渡し下校実施の周知」→「担任から生徒へ連絡」→「保護者へ連絡」→「生徒集合・人数確認」→「引き渡し開始」という流れで行いました。

## 田植え

西小林小 5・6年生



時折の雨の中、元気に、楽しみながらもち米の苗を植えました。横一列になり丁寧に作業をしたので、苗はほぼまっすぐに並んでいました。子どもたちは手足や顔に泥をいっぱい付けながらも満足そうな表情をしていました。

## 細野小 5年生

協力:まちづくり協議会・JA青年部



## 栗須小 5・6年生

協力:営農組合、みかんやスマイル会議、栗須ことぶき会など



例年は全校児童が参加しますが、新型コロナ対策で5・6年生のみで実施しました。人数は3分の1でしたが、多くの皆さんに協力していただき、学校田の半分に植えることができました。作業は大変でしたが、地域の皆さんの力を肌で感じた田植えになりました。

## 幸ヶ丘小 プール開き

小林総合運動公園



昨年度は2回、運動公園のプールで授業を行いました。今年度は6回を予定しています。  
広くて快適な環境に、子どもたちは大喜び。プールは笑顔と歓声でいっぱいでした。

## 須木小 清掃工場見学

4年生



生ごみは肥料になり、売られています。



圧縮された廃プラが出てきました。大分の工場に運ばれ、再生されます。

清掃工場の働きとともに、ごみの現状や分別されたごみの処分や再利用の方法を学習しました。また、ごみの出し方、ごみを減らすことの大切さも学びました。(案内は谷村さん:NPO 法人赤とんぼ)

## 紙屋中 キャリア学習

2・3年生



齋藤先生・黒仁田先生(小林西高校)

前半は小林西高校の学科の特色と高校生活の概要。後半は、黒仁田先生が、進路や人生に悩んだご自身の経験を話してくださいました。先生は、「悩みや不安にぶつかった時には、いろんな人に相談してほしい。そして、自分で道を選択してほしい」とエールを送りました。

## 福祉体験活動

西小林中 3年生



誰もが住みやすい「まち」にするために大切なことを学びます。2グループに分かれ、車椅子とアイマスクを交互に体験し、障がいのある人がストレスを感じることなく生活できる環境について考えました。

東方中 1年生

指導は、両校とも、社会福祉協議会の皆さんです。



災害時対応の器具「人力くん」



23ページを開いて読んでください。

小学校で基本的なことを体験していたので、今回は難易度の高い活動を取り入れました。車椅子に先生を乗せて階段を数人で運び上げたり、高齢者の日常を疑似体験して、自分たちができる「福祉」について学びました。

## 永久津小 社会科見学

4年生



九州北清



小林の可燃ゴミを処理します。



清掃工場

圧縮された廃プラに自動でラップを巻く様子を見学しています。

2つの施設で作業の様子を見学し、廃棄物の処理やリサイクルの仕組みについて学びました。小林市の燃やせるゴミは九州北清とえびの市美化センターで処理され、プラスチックごみは、えびの市と高原町からの分も搬入されています。

市民の協力でゴミの分別が進んだ結果、埋立をしている最終処分場の使用可能年数は大幅に伸びているそうです。



# School Volunteer KSSVCだより

Kobayashi Support Center

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

学校向け

コロナで沈んでいた私たちに笑顔をお届けして下さりありがとうございました。

野尻小の鑑賞教室の終わりに、6年生の児童がこんなあいさつをしました。学校再開後の多くの子どもたちの気持ちを代弁しているようで、とても心に残りました。

他の活動でも、ボランティアの方から「4か月ぶりに読み聞かせができてうれしい」とか、「七夕を一緒に作ってとても楽しかったです」などの感想をいただきました。さらに、事務局の私たちも、参観させていただきながら、さまざまな刺激を受けています。

地域学校協働活動は、その場にいるみんなを元気にする活動だと、自粛することが多い今だからこそ、改めて思います。

## 紙屋小 さつまいもの苗植え

1～3年生



3年生がマルチを張り、始めの会の進行とあいさつを受け持つのが恒例になっています。植付にはJAこばやしと保護者の皆さん約20名が加わり、丁寧に教えてくださいました。

### 【終わりの会での児童の感想より】

- 分かりやすく教えてもらって楽しかった。
- おいもが大きくなるまで世話をしたい。
- 大人になったら(いもづくりを)やってみたい。

## 高齢者理解講座

末永さん(社会福祉協議会須木支所)



須木中 3年生

高齢化の現状や特性、状況に応じた対応について学びました。今後は、認知症のサポート、高齢者疑似体験、施設の訪問なども行いながら、より深く学んでいきます。

100歳以上の高齢者は、全国で約7万人いるそうです。高齢者の問題は避けて通れません。

## 野尻小 棒踊りの授業

5年生



野尻小の棒踊りは平成10年に始まりました。

棒踊りの歴史や地域の皆さんの伝統への思い、踊りで気をつけることなどについて、お話を聞きました。5年生は、6年生と一緒に練習を重ね、運動会で披露します。最後に、分かったことや感想をまとめ、一人ずつ発表しました。

指導は平原さん・古川さん(東麓新地馬場棒踊り保存会)

- 【感想より】
- 振付は難しいけど、覚えると楽しい。
  - 相手と息を合わせるには、かけ声が必要だと分かった。
  - ずっと昔から伝わっているのはすごい。
  - 戦いの踊りということを知ったので、大きなかけ声を出して練習する。
  - 気をつけることを教えて下さったので、踊る時には棒の使い方に気をつける。

## 東方小 清掃工場見学

4年生



廃プラの塊にラップを巻いています。

家庭で分別されたごみの処理とリサイクルについて、機械が動く様子も実際に見ながら学びました。また、ごみを減らすことの大切さを環境と市の財政の面から考えました。

説明と案内は谷村さん(NPO 法人あかとんぼ)

## 租税教室

須木小 6年生



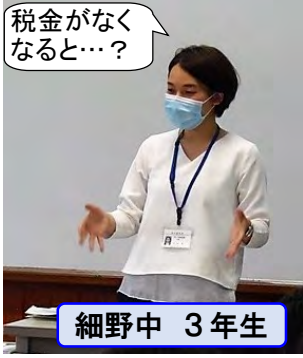
1億円持ってきました。

重い!

いろいろな税金と国や市町村のお金の仕組みについて学びました。また、税のない社会を描いたアニメを通して税金の役割について考えました。講師は柏野さん(須木庁舎住民生活課)



高齢者がいつまでも働かなくてはなりません。



税金がなくなると…?

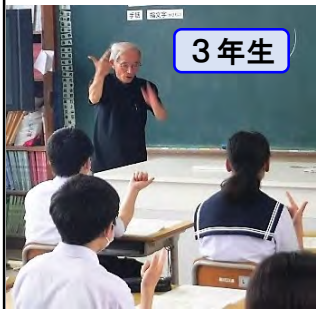
細野中 3年生

社会科と「生き方」の授業。税務署の仕事、税金の種類と役割、国の財政と今後の課題などについて、資料と話し合いを通して学びました。

講師は今村さん(小林税務署)「商業高校で取った簿記の資格を生かせる仕事として税務署を選びました」

**野尻中 手話講座**

指導は手話サークル「木の实会」の皆さん



3年生



聞こえない人の生活やコミュニケーションの方法についてのお話を聞き、(唇の形で意思を伝える)口話やジャスチャー、手話を体験しました。最後は、自分の名前の指文字を練習して、手話での自己紹介もできるようになりました。

**三松小 岩戸神楽の学習**

4年生



神様登場!



刀や鈴、笛などを、手に取って観察しました。



岩戸神社を見学し、神楽をDVDで見た後の授業です。1回目の講師は田原さんと小川さん(保存会)。岩戸神楽の歴史に加え、衣装や道具、神舞について分かりやすく教えていただきました。

2回目は井上さん(社会教育課)を迎えて岩戸神社と岩戸神楽の歴史を学びました。

五穀豊穡を願って神楽が舞われるようになったこと、神社の仁王像が守り役を務めていることなど、人々の生活の中から伝統文化が生まれたことを知りました。中学2年生になると、笛や太鼓を習い、神楽を舞います。

**読み聞かせ**

小林小 4~6年生



「くすの木文庫」の皆さん9名

背筋を伸ばしたりリラックスしたり、時には身を乗り出して…。さまざまな姿勢や表情でお話を聞いていました。久しぶりの読み聞かせを子どもたちは待ち望んでいました。

とても熱心に聞いてくれるのでうれいす♡

三松中



保護者と保護者のOBが月に1度、全学級で行っています。絵本は個人で準備したり学校や市の図書館から借りています。

小林中 1・2年生

「小林子ども遊学会」の皆さん



民話から現代の物語まで、会員の皆さんがこの日のために選んだ1冊を読んでくださいました。

三松中、小林中ともに、中学生が小学校1年生の時から活動している方もいらっしゃいます。子どもたちが真剣に耳を傾けるのは、ずっと続いている読み聞かせに親しみを感じていることも理由の一つなのでしょう。

【事務局より】 ○ 夏休み中の地域の行事や外部講師を招いての職員研修の予定がありましたらお知らせください。(8・9月の計画表を配布しました)

○ 「地域学校協働活動の課題と方向性」について(意見聴取)は、学校でまとめても、先生方の分をそのまま提出いただいてもかまいません。様々な視点からのご意見を伺いたいと思っています。

**本格的な暑さを迎えます。ご自愛ください。**